

=====

====

JAECS Newsletter No.8 (March 8, 1995)

英語コーパス研究会 会長 齊藤俊雄

事務局：〒560 豊中市待兼山町 1-8 大阪大学言語文化部

齊藤研究室 Tel: 06-850-5866 (直通) Fax: 06-850-5865 (齊藤宛)

E-mail:

(E-mail address deleted)

=====

=====

この度の阪神大震災で罹災された会員の皆様に心からお見舞い申し上げます。英語コーパス研究会にはかなりの数の阪神地区在住の会員がおられますが、全員ご無事であったことを祈っております。ご無事であっても、まだまだガス・水道等が復旧しない地区も多く、ご苦労が多いことと存じますが、一日も早くこれまでの研究生活に戻れることを願っております。

#### 1. 第5回例会のご案内

英語コーパス研究会第5回例会は、4月8日(土)に大阪大学大学院言語文化研究科棟(豊中市待兼山町1-8、阪急宝塚線石橋駅下車、徒歩/タクシー)で開催されます。会場は昨年の第3回例会と同じ会場です。

プログラムを同封いたしますが、今回は研究発表2つと、最近2億語を達成した **Bank of English** についてのシンポジウムがあり、充実したプログラムを組むことができました。新学期開始のお忙しい時期ですが、多数の方々のご出席を期待しております。

例会後の懇親会は、準備の都合がありますので、はがきか、メールで事務局にご参加の連絡をお願いします。

#### 2. 『英語コーパス研究』第2号編集完了

機関誌第2号の編集が、大震災の影響で大変遅れましたが、この度ようやく編集が終わり、3月一杯に刊行の目途が立ちました。例会当日には会員の皆様に配布できる予定で、ほっとしております。

第2号は、論文6編、研究ノート1編、新刊紹介、雑誌紹介各1編、ソフトウェア紹介2編と盛りたくさんで、150ページを超えるものとなりました。なお会員名簿は機関誌から

はずして、独立させました。

例会ご欠席の方々には後日郵送させていただきます。

### 3. アンケート調査結果

昨年の秋に会の運営についてアンケートをお願いしましたところ、31名の方々のご協力がありました。お礼を申し上げます。

アンケート結果の主なところをご紹介します（無回答もありますので、合計は31名になりません）。

◇年2回の例会開催 肯定 24 変更希望 6

◇開催の時期 現状肯定 23 変更希望 4

◇午後の開催 現状肯定 24 全日希望 5

◇例会の構成・内容 現状肯定 24 変更希望 1

◇言語情報処理講習会開催希望 有り 23 無し 6

◇研究会を学会にする

現状のまま 4 早急に 5 いずれ 21

◇連絡のパソコン通信化 賛成 24 不賛成 5

以上で、例会については大多数の会員の方々が現状を肯定しておられることが分かりました。ただし、変更ご希望の方が数名おられますが、これは関西以外の会員の方々に、やはり年2回の関西出張は苦しいようです。今後、年2回のうち1回は日本英文学会や日本英語学会の大会前後に開催することも検討しなくてはならないと思われまふ。また関西以外の会員がもっと増えれば、関西以外でも開催することが必要であり、また可能にもなりまふしょう。

また言語情報処理講習会の開催希望者が大変多いので、この若い研究会にその余力があるかどうか分かりませんが、前向きに検討して行きたいと思っています。

研究会の運営については、今後とも会員の皆様のご意見を伺いながら、進めていきたいと思ひますので、積極的にメール等でご意見をお寄せ下さい。

### 4. 英語コーパス研究書誌の編纂延期について

コーパス研究関係の書誌編纂のために、業績資料の送付をお願いしましたが、ほんの少数の方しかお送り頂けませんでしたので、編纂はしばらく延期することになりました。送っていただいた方々には、その点深くお詫び申し上げます。

## 5. 新入会員紹介

Newsletter No.7 発行以降の新入会員の方々は次の通りです（3月5日現在）。研究会での今後のご活躍を期待しております。

後藤 斉（東北大学）E-mail: (E-mail address deleted)

東郷登志子（高 校）

保坂道雄（佐野女子短期大学）NIFTYServe: LDF01607

住所、電話番号などの詳細は、会員に配布される名簿をごらんください。

## 6. 事務局から

◇本年度会費未納の会員の方は、郵便振替でお納め下さい。（口座番号：00940-5-250586 英語コーパス研究会）。年会費は、一般会員 4,000 円、学生会員 3,000 円です。所属等に変更・移動がある方は、お忘れなく通信欄にお書き添え下さい。

◇ニューズレターNo. 8 の発行が予定より大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。事務局（齊藤研究室）は地震で本棚がすべて倒れ、惨状を呈し、まだすっかり原状回復ができていない状態です。さらに、編集子は芦屋市在住で、大震災の渦中にありましたので、早くも焦りながら、今日に至った次第です。ご寛恕の程お願い申し上げます。（コンピュータ類の被害が軽微で、編集作業に支障がなくて幸いです。）

=====

===

JAECS Newsletter No.9 (May 10, 1995)

英語コーパス研究会 会長 齊藤俊雄

事務局：〒560 豊中市待兼山町 1-8 大阪大学言語文化部

齊藤研究室 Tel: 06-850-5866 (直通) Fax: 06-850-5865 (齊藤宛)

E-mail: (E-mail address deleted)

=====

=====

1. 第5回例会無事終了

英語コーパス研究会第5回例会は、4月8日(土)に大阪大学大学院言語文化研究科棟で開催されました。阪神大震災の後のことでもあり、新学期早々の多忙な時期でもあるので、会員の方々の出足が心配されましたが、いつもより多い70名余りの出席者がありました。研究発表2つとシンポジウム1つがありましたが、今までにも増して充実した例会でした。

研究会の後は恒例の懇親会が同じ会場で開かれ、30数名ほどの出席者があり、会員同士の交流と情報交換の誠によい場となりました。今回の例会も、29名の初めての方の出席があり、13名の方が正式の会員になって頂けました。これで会員数が122名ほどになりました。

2. 第6回例会開催予定日と研究発表者募集について

◇1995年度の秋の例会(第6回例会)は、10月7日(土)に大手前女子短期大学(尼崎市)で開催されることになりました。

なお関西以外の会員の方が出席しやすいように、日本英語学会の全国大会の前日に開催する案もありましたが、日本英語学会の全国大会は、関西学院大学での開催予定がAPECのために変更になり、いまだ不確定のため、今年は例年通りに行うことになりました。

例会のプログラムは、事務局でこれから夏にかけて編成して行くわけですが、内容についてご希望等をお寄せ下さい。

例会プログラムは、9月初旬あたりにお送りすることになります。

◇例会での研究発表を次の要領で募集いたします。ふるって応募下さい。(郵便・FAX・e-mailのいずれかで事務局まで)

◆募集締切 6月15日

◆提出物 発表題目とレジュメ(400～800字)

◆発表時間 発表 30 分+質疑応答 10 分

◆採否連絡 7月上旬

◆内容 英語コーパス研究会にふさわしいコンピュータ利用・コーパス利用を中心に据えたもの。

### 3. 『英語コーパス研究』第2号の刊行

機関誌第2号が3月末に無事刊行され、例会当日に会員に配布されました。発送経費の都合で、ご欠席の会員にはこのニューズレターと一緒に送らせていただきました。悪しからずご了承ください。

### 4. 機関誌『英語コーパス研究』第3号の原稿募集について

第3号の原稿を次の要領で募集します。第3号も充実したものになるように、会員の皆様の積極的なご投稿を期待しております。

◆原稿の種類 研究論文、研究ノート、コーパス紹介、ソフト紹介、書評、その他コーパス研究に有益な情報。いずれも『英語コーパス研究』誌にふさわしいコンピュータ利用・コーパス利用を中心に据えたもの。

◆投稿申込締切 6月30日(氏名、所属、原稿の種類とタイトルをお知らせ下さい。)

◆原稿提出締切 9月30日(ハードコピー4部提出。なおフロッピーは採用決定後に提出していただきます。)

◆原稿の長さ 研究論文は原則として和文 35字 X30行で15枚以内、英文 70ストローク X 35行で15枚以内(ともに英文 Abstract,注、書誌を含む)。研究ノートは10枚以下、その他は研究論文の半分以下。

◆書式 第2号の掲載論文を参考にして下さい。

◆採否通知 11月中旬

◆発行予定 1996年3月25日

## 5. 新入会員紹介

Newsletter No. 8 発行以降の新入会員の方々は次の通りです（5月10日現在、掲載順序は受付順）。研究会での今後のご活躍を期待しております。

藤田 高弘 高校 (E-mail address deleted)

須賀 廣 倉敷天城高校 (E-mail address deleted)

鷹家 秀史 岡山朝日高校

徳重 雅弘 神戸市立楠高校

巳波 義典 京都外国語大学

西村 公正 関西外国語大学短期大学部

宮本 佳樹 徳島大学院生

吉村 昭市 京都精華大学

山崎 俊次 大東文化大学

森 庸子 神戸市外国語大学院生

河上 誓作 大阪大学

好田 實 大阪外国語大学

中 則夫 大阪学院大学

辻本 智子 奈良女子大学院生 (E-mail address deleted)

住所、電話番号などの詳細は、会員に配布される名簿をごらんください。

## 6. 会計報告

1994年度の決算報告書は次の通りで、総会で承認されました。

### ◆収 入

前年度繰越金 167,319 円

平成6年度会費納入者 97名中

一般会員 90名 x4,000=360,000 円

学生会員 7名 x3,000=21,000 円

運営委員倍額分 11名 x4,000=44,000 円

当日会員（第3回例会） 8名 x1,000=8,000円  
当日会員（第4回例会） 14名 x1,000=14,000円

会誌販売 10部 x1,000=10,000円  
懇親会費（第3回） 28名 x3,000=84,000円  
懇親会費（第4回） 29名 x4,000=116,000円  
計 657,000円

収入 合計 824,319円

◆支出

運営委員会・例会費用（第3回） 16,200円  
運営委員会・例会費用（第4回） 15,000円  
懇親会費（アルバイト学生交通費含む）  
（第2回例会追加分） 6,000円  
懇親会費（第3回例会） 76,120円  
懇親会費（第4回例会） 157,530円  
通信費（ニューズレター・会誌発送費含む） 72,700円  
会誌印刷用紙 1,476円  
支出 合計 345,026円

差引残高（次年度へ繰越） 479,293円

[付記] 会誌第2号発行の費用（130,000円）は平成7年度に支払い。

7. 会員名簿について

会員名簿は、会誌第2号からはずして、例会当日お配りしましたが、その後の会員増、住所訂正等がありましたので、5月10日付けで訂正版を作成しましたので、お送りいたします。

今後とも所属等変更がありました場合は、お忘れなく事務局にご連絡下さい。

8. 会費納入のお願い

本年度会費未納の会員の方は、郵便振替（用紙同封）でお納め下さい。（口座番号：00940-5-250586 英語コーパス研究会）。年会費は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。

9. 事務局への連絡について

いつもの通り事務局（齊藤研究室）は不在勝ちですので、ご用の方は電話よりも電子メール（題字下に記載）、郵便またはファックス（言語文化部事務室のものでありますので、宛名に「齊

藤研究室」を明記のこと)のご利用をお勧めします。

=====

====

JA ECS Newsletter No.10 (August 30, 1995)

英語コーパス研究会 会長 齊藤俊雄

事務局：〒560 豊中市待兼山町 1-8 大阪大学

言語文化部 齊藤研究室

Tel: 06-850-5866 (直通) Fax:06-850-5865 (齊藤宛)

E-mail: (E-mail address deleted)

=====

=====

#### 1. 第6回例会のご案内

英語コーパス研究会第6回例会は、10月7日(土)に大手前女子短期大学(〒664 伊丹市稲野町2丁目2-2 阪急伊丹線稲野駅より徒歩2分/JR福知山線猪名寺駅より徒歩7分)で開催される運びになりました。会場校のご厚意と西村道信運営委員のご尽力に感謝致します。

プログラムを同封いたしますが、今回は盛りたくさんの充実したプログラムを組むことができました。講演には外部から情報科学の専門家をお招きして、最新のお話を伺うことになりました。ご期待下さい。

また、初めての企画ですが、新井洋一先生のご尽力で、午後のシンポジウムと関連してOEDのCD-ROMについてのワークショップを午前中に開催することになりました。実際にパソコンを使つての実習になりますので、特にこれからOEDを利用したいとお考えの会員には、またとないよい機会となりますでしょう。

このワークショップ参加と例会後の懇親会出席は、準備の都合がありますので、はがきか、電子メールで事務局に9月25日までにご連絡をお願い致します。

なお、午前中から参加の方々は、昼食には周辺に食堂がありますし、学内食堂もご利用になれます。また、会場校を大手前女子大学(西宮市)とお間違えないように、念のために申し添えておきます。

#### 2. 『英語コーパス研究』第3号原稿募集について

機関誌第3号への投稿申し込みがたくさんあり、喜ばしいことです。種類は研究論文、ソフト紹介、コーパス紹介となっております。

原稿提出の締め切りは9月30日です。昨年と同様に、投稿申し込みをされなかった方も受け付けますので、ふるってご投稿下さい。

### 3. 運営委員補充

英語コーパス研究会の会員増加と会員の全国化に対応するために、運営委員の補充が春の総会で承認されましたが、次の方々をお願いすることになりました。今後のご活躍を期待したいと思います。

園田勝英（北海道大学）	朝尾幸次郎（東海大学）
深谷輝彦（椋山女学園大学）	正保富三（大阪外大）
井上永幸（島根大学）	地村彰之（広島大学）
中尾佳行（山口大学）	田畑智司（有明高専）

### 4. 新入会員紹介

Newsletter No.9 発行以降の新入会員の方々は、次の通りです（8月21日現在、掲載順序は入会順）。研究会での今後のご活躍を期待しております。

鈴木 英夫（東京大学）(E-mail address deleted)  
高見 敏子（東京大学院生）(E-mail address deleted)  
渡邊 都子（ベネッセ・コーポレーション）NIFTYServe:KYA03027  
滝澤 直宏（名古屋大学）(E-mail address deleted)  
田辺 春美（成蹊大学）NIFTYServe: GHH02670

住所、電話番号などの詳細は、会員に配布される名簿をごらんください。

### 5. 事務局から

◇会誌の残部について

『英語コーパス研究』第1号は品切れということで購入希望者にお断りしておりましたが、残部がまだ若干ありましたので、希望者にご連絡下さい（1部1,000円〈送料込み〉）。

事務局移動の際の不手際のせいで、ご迷惑をお掛けしました。なお、第2号はまだ相当部数あります（1部1,500円〈送料込み〉）。

#### ◇会費納入のお願い

本年度会費未納の会員の方は、郵便振替でお納め下さい（口座番号：00940-5-250586 英語コーパス研究会）。年会費は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。所属等に変更・移動がある方は、お忘れなく通信欄にお書き添え下さい。

## FORUM

### ◆英語コーパス研究者のための Mailing List ‘Corpist’が発足

この度、日本人の英語コーパス研究者のためのメーリングリストを作りました。是非御参加くださるようご案内申し上げます。詳しくは以下のとおりです。

#### 【設置の趣旨と目的】

Internet 上には Corpora という名前のメーリングリストがあり、コーパス研究についてのいろいろな情報が交換されています。この分野の世界中の主要な研究者は、だいたい加入しているようですし、日本からも多くの方が参加していることと思います。学会やセミナー等の各種催しの案内、新しいコーパスやコーパス作成ツールのアナウンス、さまざまな質問とそれに対する応答などが日々行われています。コーパス研究のようにまだ標準的な教科書もない、若くて急速に発展している分野で、このようなメーリングリストが果している役割は、はかり知れません。（西納春雄「英語コーパスと学術コンピュータネットワーク」、『英語コーパス研究』第2号参照）

一方、目を日本国内に転じますと、この種の情報交換の場が無く、いろいろ不便を感じる場合があります。そこで日本人の英語コーパス研究者のためのメーリングリストを作ることになりました。上記 Corpora を補完し、各種アナウンスをはじめ、情報の提供、質疑応答が目的です。

#### 【利用の方法】

メーリングリストの名前は Corpist です。加入脱退は自由で、投稿はすべて自動的に加入者全員に転送されます。（I.e., Corpist is an open and unmoderated list.）

加入するためには、ただ一行 **subscribe corpist** と本文に書いたメールを(**Subject:** は空欄のまま)、

**majordomo@ilcs.hokudai.ac.jp**

宛に出してください。

投稿するためには、メッセージを

**corpist@ilcs.hokudai.ac.jp**

宛に出してください。

さらに詳しい使い方については、本文に **help** とだけ書いて

**majordomo@ilcs.hokudai.ac.jp**

宛にメールを出してください。折り返し説明書がメールで届きます。

その他、問い合わせ要望等については園田までお願いいたします。

園田 勝英 (北海道大学)

Institute of Language and Culture Studies (ILCS), Hokkaido University,

Kita-ku, Sapporo, 060 JAPAN. E-mail: (E-mail address deleted)

Phone:011-706-5375 Fax:011-736-2861

【事務局より】待望のメイリングリストの発足です。日本における英語コーパス研究に大いに貢献することを期待しております。

◆Helsinki Corpus 研究グループに文部省科学研究費補助金交付

Newsletter No. 5 (1994年5月)で齊藤俊雄会長が、Helsinki Corpus を利用した英語統語法発達の共同研究を呼びかけられ、それに応じて約10名の研究者が集まったことは、No. 7で報告しました。

われわれのグループでは、史的統語法研究・コーパスの有効性の検証・検索プログラムの開発の3つを柱にした「コンピュータコーパスを利用した英語発達史研究」という研究課題

を設定し、今年度の文部省科学研究費重点領域研究「人文科学とコンピュータ」の公募研究として採択されました。これで共同研究への弾みがつきました。

まだ動き出したばかりのプロジェクトですが、いずれ英語コーパス研究会の例会や『英語コーパス研究』で研究成果を発表できればと考えております。

本グループについての問い合わせは、下記宛にお願いします。

西村秀夫 (神戸大学国際文化学部)

E-mail: (E-mail address deleted)

【事務局より】今年も科研申請の時期がまもなくやってきますが、会員の皆さん、重点領域でも一般研究でも、積極的に申請されるようお勧めします。

#### ◆Time Almanac 1990s (CD-ROM)紹介

過日、Time Almanac 1990s (住友金属工業株式会社オープンシステム事業室発売,12,800円)を購入しました。この製品は、1989年から1994年5月2日号までの5年以上のTimeの記事を集め、それに数多くの動画などを加えて編集したマルチメディアCD-ROMですが、我々にとっての朗報は、この中の記事がすべて普通のテキストファイルでディレクトリごとに整理して収められているので、コーパス研究にとって非常に有益な情報を提供してくれる可能性を秘めていることです。

私自身、そのテキストファイルの部分だけをMOに落としましたが、100MBをこえる量があったと記憶しています。このことにもう既に気づいて、使っている方がきつといるだろうと思いますが、ご連絡申し上げます。

五百蔵(イオロイ) 高浩 (高知女子大学)

E-mail: (E-mail address deleted)

#### ◆From Down Under

—Newcastle 大学でのコンピュータ援用英語英文学研究の状況—

ニューカースル大学 (The University of Newcastle, NSW, Australia)では、1980年代前半からJohn Burrowsによって、Jane Austenの小説を中心に英文学作品のテキストコーパスの構築、およびそれに基づいた文体分析が始められた。その後1989年に大学及び学外

の機関がスポンサーとなって、The Centre for Literary and Linguistic Computing (CLLC) が設立され、現在 CLLC は 3 人の研究者(J. F. Burrows, D. H. Craig, C. W. F. McKenna) と、データ入力、ワードタギング、ソフトウェア開発など、彼らの研究をそれぞれの分野で支える 3 人のリサーチ・アシスタントの計 6 人からなっている。

CLLC ではグループ・プロジェクトの形でコーパスの規模が年々拡大されてきており、様々なジャンルの作品が入力されている。

これまでのところデータベース化されているものでは、まず劇に関して Shakespeare, Ben Jonson, Middleton を中心とした Renaissance drama が 75 本 (Craig が担当)、12 人の作家の作品を収めた "Romantic tragedies" (Burrows)、小説では James Joyce の作品集 (McKenna)、Jane Austen の全集、それに 18 世紀から今世紀にかけての narrative を収録した "History"、また英・米・豪・NZ の小説家の narrative を広範にカバーした "International" なデータベースがある。Narrative のデータベースにおさめられている作家の数は 120 人を越えるという。

一方、詩については 12 人の詩人の Restoration poems が集められており、その他書簡集も、同じく 12 人の作家のものをデータベース化している (以上いずれも Burrows)。入力されたテキストにはタグがつけられ、homograph が識別できるようになっており、また各行頭に原本の章・ページ・行番号等を示す「パネル」がつけられる。このパネルにはさらに、地の文と会話、さらに描出話法等の区別を表したり、発話している登場人物の ID を示すマーカーが含まれており、OCP や CLLC で開発された検索・索引プログラムで、すぐに特定の人物の発話をピックアップできるようになっている。目下こうしたパネルを TEI や SGML に準拠したフォーマットに置き換えるプログラムを準備中とのことである。これが完成すれば、さらに強力で緻密な検索が可能になるであろう。

CLLC のメソドロジーは、コーパスに見られる最も頻度の高い 50-100 語の統計解析が中心となっている。主成分分析や判別分析などの多変量解析をツールとして適用し、特に authorship attribution の分野で多くの成果を上げているようであるが、その他にも English narrative の年代的推移や、作家の出身国によるスタイルの相違など興味深いテーマが追求されている。CLLC へのアクセスのために、WWW のホームページも用意されている。アドレスはつぎのとおりである。

<http://www.newcastle.edu.au/department/lc/>

ニューカースルにて

田畑 智司（有明高専）（E-mail address deleted）

【事務局より】 田畑先生は 8 月末帰国予定です。

=====

===

JAECS Newsletter No.11 (Oct.30, 1995)

英語コーパス研究会 会長 齊藤俊雄

事務局：〒560 豊中市待兼山町 1-8

大阪大学言語文化部

齊藤研究室

Tel：06-850-5866（直通） Fax：06-850-5865（齊藤宛）

E-mail: (E-mail address deleted)

=====

=====

#### 1. 第6回例会無事終了

英語コーパス研究会第6回例会は、10月7日（土）に大手前女子短期大学で開催され、盛会裡に終了しました。これまでになく80名を超える出席者がありました。初めての試みであったワークショップは、新井先生のシンポジウム・グループのご尽力と、紀伊国屋電子事業課のご協力で、実現しました。今回は幸いに、会場校のご厚意で、最新のパソコンを導入したOA実習室を利用することが出来ました。今後もこのようなワークショップを行いたいと思いますが、問題は施設です。今後このような施設のあるところが、会場校に名乗りを上げて頂けたらと願っています。

最後に、例会の会場をご提供下さった大手前女子短期大学と、ご尽力下さいました会場校の西村道信委員に厚くお礼申し上げます。

#### 2. 第7回例会開催予定日と研究発表者募集について

◇1996年度春季例会（第7回例会）は、4月20日（土）に大阪大学大学院言語文化研究科棟（豊中市）で開催されることになりました。

◇例会での研究発表を次の要領で募集いたします。（郵便・FAX・e-mailのいずれかで事務局まで）

- ◆募集締切 11月20日
- ◆提出物 発表題目とレジュメ(400～800字)
- ◆発表時間 発表30分+質疑応答10分
- ◆採否連絡 12月上旬

◆内 容 本研究会にふさわしいコンピュータ利用・コーパス利用を中心に据えたもの。

### 3. 『英語コーパス研究』第3号の編集

会誌第3号への応募論文は、幸い、第2号同様の質・量が保てるほどありました。現在、応募論文の審査段階に入っています。来年3月末に刊行予定です。

### 4. Mailing List ‘Corpist’のご利用を

先号で北大の園田先生から、設立趣旨と利用方法について、ご説明がありました。先生のご尽力で、情報交換の場が新しくできたわけですので、積極的にご利用をお勧めします。

加入方法は、ただ1行 `subscribe corpist` と本文を書いたメールを（Subject:は空欄のまま）

`majordomo@ilcs.hokudai.ac.jp`宛に出すだけです。（NIFTYServe からでも入れます。宛先に `TO:INET:`をつけるだけです。念のため） 投稿するためには、`corpist@ilcs.hokudai.ac.jp`宛に出します。

### 5. 新入会員紹介

Newsletter No. 10 発行以降の新入会員の方々は、次の通りです（10月28日現在、掲載はアイウエオ順）。研究会での今後のご活躍を期待しております。

磐崎弘貞（筑波大学）(E-mail address deleted)

遠藤 裕昭（名古屋大学院）(E-mail address deleted)

大名 力（群馬大学）(E-mail address deleted)

大和田 栄（東京成徳短期大学）(E-mail address deleted)

河内 清志（広島女学院大学）

木村 まきみ（大阪大学大学院）(E-mail address deleted)

杉森 直樹（大谷女子短期大学）(E-mail address deleted)

谷 明信（武庫川女子大学）

豊島 正之（北海道大学）(E-mail address deleted)

古田 八恵（四国大学）

堀 正広（熊本学園大学）

松田 謙次郎（広島大学）(E-mail address deleted)

三木 隆之（網干高校）NBD00410

住所、電話番号などの詳細は、会員に配布される名簿をごらんください。

## FORUM

### ◆MANCHESTER だより

英国のマンチェスターより、皆様へご挨拶申し上げます。実は、このような機会を頂けるのも、internet のお蔭でありまして、私の所属する UMIST (University of Manchester Institute of Science and Technology) の CCL (Center for Computational Linguistics) には、以前より、日本語の翻訳等の自然言語処理に関する分野の技術者が数多く来ておりまして、そのため、work station の日本語環境が万全です。先日、齊藤先生に近況報告のメールをお送りしましたところ、このように投稿の依頼があったわけです。

さて、私の現在の研究テーマは、コーパス内の数々のカテゴリーの言語的特徴を抽出するために必要な文法範疇標示の最適化の問題を、多変量統計解析法を用いて検討しています。たとえば、LOB Corpus のタグに改善を加えて完成した ICE (the international Corpus of English) は、これまでの lexical and grammatical information の情報提供としてのタグが、さらに細分化され、semantic and syntactic な性質を帯びていることでは、大変評価されますが、このようなタグを多変量統計解析での feature として、分析した場合、どのような尺度が言語的解釈を可能として現れるのか、実に興味深い問題です。また、Biber (1988) の同種の解析にしましても、出現したどの尺度も written/spoken を区別してないという点では、feature の設定に疑問が残るところでもあります。このようなことを含めて、授業を聴講しながら、来年3月末までの予定でやっております。なにか、ご興味がお有りでしたら、どうぞ、メールで御連絡ください。失礼いたします。

高橋 薫 (豊田高専 (E-mail address deleted))

### ◆待望の COBUILD の CD 発売

最近イギリスのハーパコリンズ社から出版された Collins COBUILD English Collocations on CD-ROM と Collins COBUILD on CD-ROM を入手しましたので、その概要を紹介いたします。Collins COBUILD English Collocations は、特定の語がどのような語と頻繁に共起するかという、語の連語度 (collocability) を調べるためのものです。よく使われる 1 万語についての検索が可能で、3通りの表示形式があります。最初に検索語に対して、連語度の高い上位 20 語が出現回数とともに表示されます。次にその中からある語を選択すると、KWIC 形式で 20 例が示され、さらに、いずれか 1 行を選ぶと、200 語程度のコンテキストが表示されます。説明書によると、14 万語の連語と 260 万の例文が収められているとのこと。Collins COBUILD on CD-ROM には、既に同社から出版されている Collins COBUILD English Language Dictionary (1987)、Collins COBUILD English

Grammar(1990)、Collins COBUILD English Usage (1992)と、Word Bank という 500 万語のコーパスが収められています。検索は語単位の検索 (ワイルドカードを用いた前方一致検索、AND OR 検索を含む) に限られます。一番の特徴は、グローバル検索ができることです。つまり検索は Dictionary, Usage, Grammar, Word Bank のセクションを横断して行われます。たとえば、tell を検索すると、Dictionary: 13, Usage:8, Grammar: 3, Word Bank: 1278, Total: 1302 のように、ヒット数が表示されますので、見たいセクションをクリックすると、検索結果が現れます。便利な機能として、検索結果の例文を読んでいて、意味の分からない単語が出てきたら、それをダブルクリックして、Look UP のボタンを押すと、dictionary が意味と用例を表示してくれる機能があります。例文の出典は、ephemera, magazine, newspaper, book のようにメディアのみを、各例文のあとに表示します。使い勝手に関しては、かなり不満があります。

コロケーションの方では、表示されたコンテキストをワープロなどに取り込めないことや、フルスクリーンでしか使えないこと、COBUILD on CD-ROM では、検索結果の他のアプリケーションへの取り込みは可能ですが、窓単位に限られており、表示されているうち的一部分だけを、選択して取り込むことはできません。つまり不必要な部分までペーストすることになります。とはいえ、電子化されたことで、検索のスピード化、効率化がはかれる点では、現代英語の研究者には、是非備えておきたい CD-ROM でしょう。購入については、下記の所へお問い合わせください。

HarperCollins

Electronic Reference

14 Steep Lane

Findon, Worthing

West Sussex, BN14 0UF

United Kingdom

Tel: +44 (0)1903 873 555 Fax: +44 (0)1903 873 633

E-mail: 100317,1372@compuserve.com

赤野一郎 (京都外国語大学 (E-mail address deleted))